

# CASBEE® 京都-新築

## 標準システム

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-京都-建築(新築)2018年版 使用評価ソフト: CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)京都御池ホテル 新築工事	階数	地上9F、地下1F
建設地	京都市中京区富小路通御池上る守山町165番1	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	200 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	ホテル	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年6月 予定	評価の実施日	2020年1月30日
敷地面積	694.04 m <sup>2</sup>	作成者	村上 幸生
建築面積	477.13 m <sup>2</sup>	確認日	2020年1月31日
延床面積	4,173.33 m <sup>2</sup>	確認者	安達 裕一



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> 温暖化影響チャート	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p><b>BEE = 1.2</b> ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>★☆☆☆☆ 30% ☆☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆☆ 100%超: ☆</p> <p><b>標準計算</b></p> <p>①参照値: 100% (184 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)</p> <p>②建築物の取組み: 83% (46 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)</p> <p>③上記+②以外の: 83%</p> <p>④上記+: 83%</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>Q1 室内環境: 2.9 Q2 サービス性能: 2.7 Q3 室外環境(敷地内): 3.7 LR1 エネルギー: 3.2 LR2 資源・マテリアル: 3.5 LR3 敷地外環境: 3.1</p>

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p><b>Q 環境品質</b> <b>Q のスコア = 3.1</b></p>		
<p><b>Q1 室内環境</b> <b>Q1のスコア = 2.9</b></p>	<p><b>Q2 サービス性能</b> <b>Q2のスコア = 2.7</b></p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b> <b>Q3のスコア = 3.7</b></p>
<p><b>LR 環境負荷低減性</b> <b>LR のスコア = 3.2</b></p>		
<p><b>LR1 エネルギー</b> <b>LR1のスコア = 3.2</b></p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b> <b>LR2のスコア = 3.5</b></p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b> <b>LR3のスコア = 3.1</b></p>

3 設計上の配慮事項		
<p><b>総合</b></p> <p>京都市中京区に新設されるホテルの計画である。室内環境に配慮し利用者の快適性向上を図りつつ、省エネ、省資源に向けた取組みを行い、環境に配慮している。</p>	<p><b>その他</b></p> <p>特になし。</p>	
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>開口部遮音性能、光環境、空気質環境に配慮し快適な室内空間としている。</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>更新必要間隔の長い建築部材を採用し、建物耐用性に配慮している。</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p> <p>敷地内緑化を積極的にを行い、景観に配慮している。</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>太陽光発電設備、高効率設備を採用し省エネルギーに配慮している。</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>省水型機器やリサイクル材、再利用可能部材を採用し省資源に配慮している。</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>LCCO<sub>2</sub>排出量削減に配慮している。</p>

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される